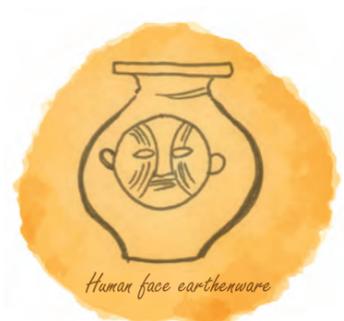


れきしみち

2. 聖徳太子絵伝模写完成記念特別展「まねるうつすつたえる」
4. 次回の特別展予告「若沖と京の絵師」
6. 古文書から分かる村のくらし
7. 安祥文化のさとではたらく人たち、イベント紹介
8. 常設展示室の展示替え紹介、市民ギャラリーよりお知らせ

2016.10
No.102



特集：聖徳太子絵伝模写完成記念特別展「まねるうつすつたえる」

写真中央：聖徳太子絵伝 第一幅部分 太子2歳、「南無仏」と唱える場面

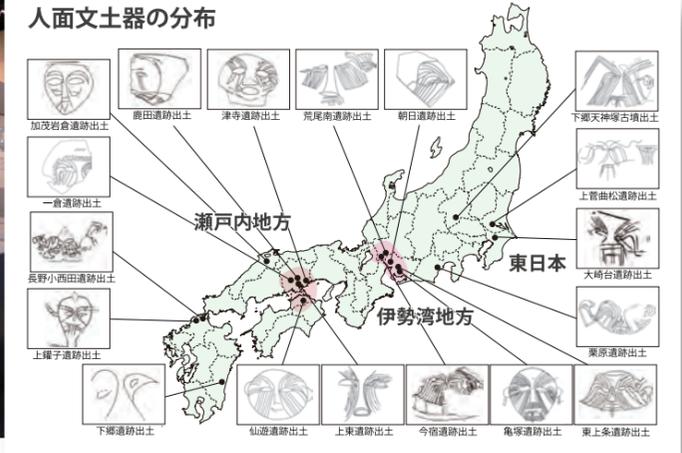


常設展示室の展示替え

平成28年7月から展示替えしている見どころはココ！



人面文土器



安城市歴史博物館『弥生の絵画 倭人の顔—描かれた2000年前の世界—』より一部加筆

平成28年8月に亀塚遺跡出土「人面文壺形土器」という名称で国指定重要文化財となりました。今回、そのお披露目も兼ねて顔のメッセージコーナーの展示替えを行いました。

土器に人面が描かれる、いわゆる人面文土器は全国でも出土例が少なく非常に貴重なものです。また、人面文土器の顔面に描かれた多数の線は入墨をあらわすとされていて、中国の歴史書『魏志』「倭人伝」に「鯨面文身」と記述されていることを彷彿とさせます。

人面文土器の系譜は縄文時代晩期に東日本を中心にみられる鯨面土器に系譜を求めることができます。弥生時代後期になると、土器に線刻で人面を描く人面文土器が九州・瀬戸内地方を中心にみられるようになります。その後弥生時代終末期から古墳時代初頭に伊勢湾沿岸部へ、古墳時代前期に東日本へ伝わっ

ていきました。近畿地方では出土例は報告されていません。伊勢湾沿岸部でも、すべての地域で出土が認められているのではなく、岐阜県荒尾南遺跡などを中心とした西濃グループ、愛知県八王子遺跡を中心とした尾張北部グループ、愛知県朝日遺跡などを中心とした尾張南部グループ、安城市の鹿乗川流域遺跡群の三河西部グループといった一部の地域でのみ出土しています。鹿乗川流域遺跡群は5遺跡7例の出土例が報告されており、周辺地域と比較しても多くの人面文土器が見つかっています。

今回は国指定重要文化財人面文壺形土器の他に、人面文土器の系譜や地域ごとの分布の特徴や人面表現の違いが分かるように人面文関係土器の複製品を中心に展示をしました。地域ごとにさまざまな表情をみせる人面文土器をこの機会にぜひご覧ください。

安城市民ギャラリーよりお知らせ

第73回 安美展



安美展は安城市唯一の公式な公募型美術品展覧会で、市内にとどまらず、広く全国から募った美術品を展示します。

- 【開催期間】
- 【前期】日本画、書、工芸形塑 平成28年10/21(金)～10/30(日)
- 【後期】洋画、写真 平成28年11/4(金)～11/13(日)
- 【時間】9:00～17:00【休館日】10/24(月)、11/7(月)

市民ギャラリーコレクション展

「いのちのかがやき～みつめよう!表現しよう!～」



香村愛子《遠い日》

これまで安城市では、地元ゆかりの美術作家の作品を収集してきました。本展は「動物」というテーマを掲げ、このコレクションの中から選りすぐった作品と、市内小中学校29校から寄せられた作品を併せて紹介します。

- 【開催期間】平成28年11/18(金)～11/27(日)
- 【時間】9:00～17:00(最終日は～16:00)【休館日】11/21(月)

安祥文化のさと

安祥文化のさととは安城市にある松平氏四代50年の居城跡を整備した安祥城址公園一体の名称です

【全館共通事項】
住所 / 〒446-0026 愛知県安城市安城町城堀30番地
休館日 / 毎週月曜日(祝日の場合は開館)、年末年始(12/28-1/4)
URL / <http://ansyobunka.jp/> 安城市歴史博物館

安城市歴史博物館	開館時間 / AM9:00～PM5:00 TEL: 0566-77-6655 FAX: 0566-77-6600
安城市民ギャラリー	開館時間 / AM9:00～PM5:00 TEL: 0566-77-6853 FAX: 0566-77-4491
安城市埋蔵文化センター	開館時間 / AM9:00～PM5:00 TEL: 0566-77-4490 FAX: 0566-77-4491
安祥公民館	開館時間 / AM9:00～PM9:00 TEL: 0566-77-5070 FAX: 0566-77-6062
安祥城址公園	TEL: 0566-71-2244



聖徳太子絵伝模写完成記念特別展

まねるうつつ つたえる

2016年 9.24(土) ▶ 11.6(日)
【観覧料】300円(中学生以下無料)

文責：野上 真由美



安城市野寺町の本證寺に伝わる聖徳太子絵伝は太子の事績を10幅にわたり描いた大型の掛軸で、質・量ともに中世に制作された太子絵伝の中でも特に優れたもののひとつです。安城市歴史博物館では、平成22年から5力年かけて模写を制作し、その完成記念として特別展を開催します。

今回の特別展では、「まねること」「うつすこと」をテーマに、長い年月人々の信仰によって受け継がれてきた仏教美術をテーマに分けて紹介していきます。今回は、主な展示資料について紹介をします。

第一章



聖徳太子は用明天皇の子の厩戸皇子とされ、22歳で推古天皇の摂政となり冠位十二階や十七条憲法を制定したと伝えられています。また、篤く仏教に帰依しており、四天王寺など諸寺院の建設や『三経義疏』を著したと伝えられていることから、死後早い段階から人々にあがめられるようになりました。平安時代になると太子を救世観音の化身とみなしながら、太子の事績をまとめた『聖徳太子伝暦』が作成されました。この本をもとにその後多くの仏像や絵伝が制作されるようになりました。

鎌倉時代になると、聖徳太子信仰は特に盛んになりました。浄土真宗の宗祖親鸞は29歳の時に六角堂で百日間の祈願を行い、95日目に聖徳太子の夢告を受け、法然の門下となったことから「和国の教主」として篤く太子を信仰しました。そのため真宗寺院には数多くの聖徳太子の像や絵伝が残されています。



聖徳太子絵伝 第八幅(本證寺蔵)



聖徳太子孝養像摺仏(本證寺蔵)

聖徳太子像は大きく6種類に大別されます。その中でも聖徳太子2歳の像とされる南無仏太子像と、太子16歳の像で、父用明天皇の病氣治癒を祈念している様子を表現した孝養像が特に多く制作されました。彫刻の太子像を安置する寺院としても表されます。彫刻の太子像を安置する寺院では、その姿を表した摺仏を用意し、参拝者に配ることもありました。

聖徳太子信仰は様々な寺院での絵伝の絵解きによって広く民衆に伝えられました。太子絵伝の絵解きを行うために、「聖徳太子伝」「聖徳太子内因曼荼羅」などの絵解き台本も作成されました。絵解きを多くの人々に行うために鎌倉時代以降掛幅の絵伝が多く制作されました。聖徳太子絵伝は時代が下っていくごとに図様が類型化されます。例えば豊田市明誓寺に伝わる聖徳太子絵伝(江戸時代 十九世紀)は、岡崎市勝鬘皇寺に伝わる絵伝(南北朝時代 十四〜十五世紀)と図様がほぼ一致しており、前者が後者を模していることが分かります。このように聖徳太子への信仰は絵伝や彫刻など様々な「まねる」「うつす」で広められたのです。

第二章



ここでは「まねる」「うつす」で伝えられた、様々な種類の仏教美術について紹介していきます。

第1節 印仏

印仏とは、仏や菩薩の姿を版木に彫り、料紙(りょうし)下に敷いて押印することです。平安時代に貴族の個人作善(ぜん)善を行うこととして一日一必ず摺写して日課供養を行った事が書かれた日記が残っています。鎌倉時代になると、地方豪族の現世安隱、祈願成就、一家安隱、子孫繁昌などの目的として印仏が供養されるようになります。鎌倉時代に作成された仏像の胎内に印仏が納められているものが発見されることがあります。これは、仏像を造るための寄付をつる勸進作業が盛んに行われ、それに賛同した多数の人々が仏と縁を結んだ事を表しています。同一版木を用いて一紙に多くの像を押印している印仏は人々の切なる思いを込めたものであることが分かれます。

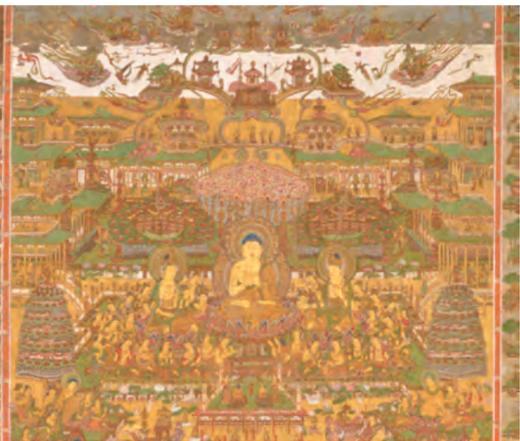


印仏(法興寺蔵)

第2節 当麻曼荼羅

当麻曼荼羅とは奈良県当麻寺に伝わる阿弥陀浄土变相図のことで、阿弥陀如来の浄土を表した「浄土曼荼羅」の一種です。浄土三部経の『観無量寿経』の内容を絵にしたもので、「観経变相図」とも呼ばれます。原本は綴織で、約四メートル四方の掛幅となっています。天平宝字7年(763)に納められたとされ、のちに藤原豊成の娘法如(中将姫)が蓮の糸で一晩で織り上げたという伝説ができました。

鎌倉時代以降になると法然高弟の証空が当麻曼荼羅を通じて浄土信仰の流布を図るために「四分一曼荼羅」や「六分一曼荼羅」といった縮本の模写制作の発端を作ったといわれています。時代が下るにしたがって16分の1に該当する縮尺図も制作され、当麻曼荼羅は日本の浄土曼荼羅の大半を占めるようになりました。阿弥陀如来の来迎救済を信じる浄土信仰の浸透と浄土への憧れが当麻曼荼羅の普及の原動力となったのです。



当麻曼荼羅図(萬福寺蔵)

第3節 仏涅槃図

仏涅槃図は、釈迦の死の情景を描いたもので、釈迦入滅の日とされる2月15日に諸寺院で行われる涅槃会(ねはんえ)で古くから用いられてきました。

絵の構図は、釈迦涅槃の様子について書かれた經典に準じており、釈迦は沙羅双樹(しゃらじゆじゆ)の間に横たわり涅槃を迎えます。釈迦が横たわる宝台の周りには、菩薩や弟子などが様々な表情で取り囲んでいます。涅槃図が盛んに作成されると、涅槃図から変容した変わり涅槃図が出現してきました。高僧の臨終の様子を涅槃図に似せて描いた高僧涅槃図が特に多く、江戸時代以降、役者や様々な人の死の情景を涅槃図に見立てた「見立涅槃図」が描かれるようになります。このように涅槃図は構図を「まねる」だけでなく図様を「まねる」「うつす」ことで様々な作品が作られました。



法然臨終絵(東龍寺蔵)

今回の展示では、現代の模写の技法の紹介も行います。まねて、うつして伝えられてきた仏教美術に触れてみませんか。

絵解きって?

高僧の事跡、神社仏閣の縁起が描かれた掛け軸や絵巻を解説する事だよ音楽に合わせて絵解きをする事もあるんだ!



©yuki nakayama

特別展関連行事

●特別展記念講演会

「美術の中の「まねるうつす」のはたらき」

【日時】10月1日(土)14時

【講師】鷹巣純氏
(愛知教育大学教授)

●特別展記念講演会

「写し継がれる聖徳太子絵伝

―真宗の作例を中心に―」

【日時】10月15日(土)14時

【講師】村松加奈子氏
(龍谷ミュージアム助教)

●歴博講座

「まねるうつすつたえる」

【日時】10月29日(土)14時

【講師】野上真由美(本館学芸員)

「本證寺聖徳太子絵伝の前と後」

【日時】11月5日(土)14時

【講師】天野信治(本館学芸員)

●体験講座

「聖徳太子を描こう」

【日時】10月2日(日)13時

【講師】阪野智啓氏
(文化財保存修復研究所)

【協力】日本画専攻

中神敬子氏
(文化財保存修復研究所)

安井彩子氏
(文化財保存修復研究所)

日本画専攻

【対象】どなたでも

【定員】30名

【申込】9月19日(月)9時より

お電話でお申し込み下さい。

電話・05007776655

●歴博演芸場

「安城絵解きフォーラム

―聖徳太子絵伝と日本の絵解き文化―

【日時】10月9日(日)

13時〜16時

【出演】 榎野明仁氏

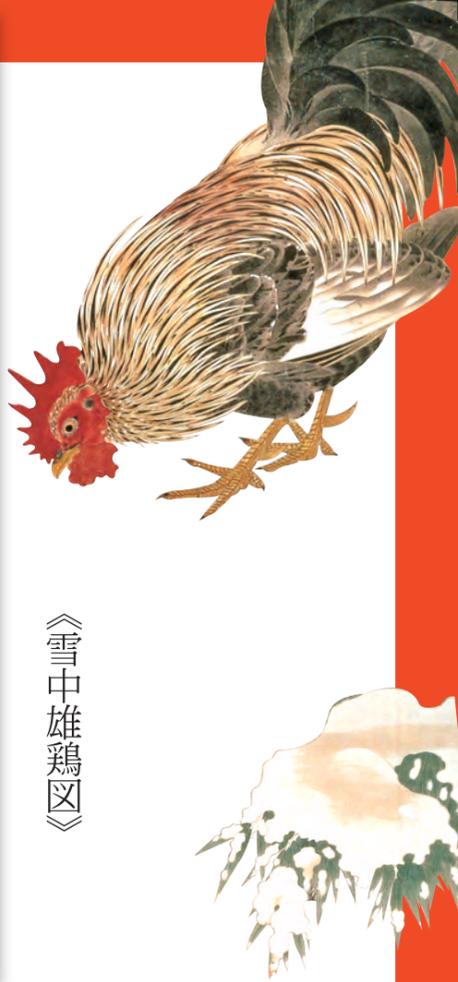
【出演】 榎野明仁氏
(二河すーぱー絵解き座座長)

阿部泰郎氏(名古屋大学教授)

鷹巣純氏(愛知教育大学教授)

土屋貴裕氏(東京国立博物館)

吉原浩氏(早稲田大学教授)



《雪中雄鶏図》



江戸時代の京都で活躍した伊藤若冲は、今年が生誕三〇〇年にあたります。すこぶる緻密で個性的な画風は高く評価され、最も人気の高い絵師のひとつです。特に今年、記念の年にあわせてたくさんの方の若冲に関する本が書店に並び、テレビでも代表作「動植綵絵」三〇幅を高精細な画像で映しだし、その魅力がますます伝えられました。東京や京都で開催された若冲の展覧会も大入りで多くの人がその魅力を堪能しました。

二〇歳代の終わり頃から本格的に絵を学んだとされ、初めは狩野派の絵を習い、やがて中国の宋や元の絵画の模写にうちこみまわりました。さらには、写生をきわめるためにたくさん二ワトリを庭先で飼いはじめ、急速に独自の画風をうちたてました。若冲の絵にける情熱は、描いた絵を売って食べていく必要がなく、高価な画材をふんだんに用意できる経済的な余裕に支えられていました。しかも四〇歳で家業を弟に譲り隠居、以後八五歳で没するまで独自の絵の道を歩みつづけた。近年は町年寄としての活躍もよく知られている若冲ですが、それにしてもうらやましい人生です。

今回開催する特別展は、多岐にわたる古美術作品を所蔵し、内外屈指の若冲コレクションでも知られる細見美術館から、若冲作品を中心に京都にまつわる絵画や工芸品の名品が出品されます。



生誕三〇〇年の「ドリ」は安城で！

若冲と京の絵師

水墨画にみる新境地

京都の細見美術館から、若冲コレクションが揃ってお出まします。他にも同館の名品が満載、千年の都で生まれ育まれた様々な美をお楽しみください。

会期

2016年11月19日(土)から
2017年1月9日(月・祝)まで
前期：11月19日(土)から12月11日(日)
後期：12月13日(火)から1月9日(月・祝)



《群鶏図》



鼠婚礼図

画像提供 細見美術館

今回出品される細見美術館の若冲コレクションのなかで、とりわけ注目されるのは、「糸瓜群虫図」と「雪中雄鶏図」です。ともに初期の着色画ですが、すでに若冲らしき全開。図鑑のようなバッタやトンボに先が枯れかけたヘチマの葉、羽根の一枚一枚を描き分けたのかと思わせるほどリアルな二ワトリ。どんなにながめていても見飽きることがありません。

一方、出品する大半の若冲作品は水墨画です。若冲といえば色鮮やかな花鳥画、と思われている方には、衝撃的なほどシンプルな画面に感じられるかもしれません。仏教に高い関心を示し、禅にも傾倒した若冲にとって、こちらの表現も必然だったのでしょう。しかし、じっくりと見てください。黒々とした太い線の勢いがみせる圧倒的な存在感、細かな

線や擦れ、暈しがかもしたす多様な質感など、豪快さと繊細さが同居したところに、若冲独特の魅力がいつそう強く感じられます。緻密な花鳥画を実現できる若冲の実力が、別の形で結晶したといえるでしょう。

この展覧会では、若冲以外の作品も取り上げます。京都の最も代表的な祭りのひとつ祇園祭を描いた屏風装飾的で華麗な意匠を生み出した俵屋宗達や尾形光琳、神坂雪佳など琳派の作品、いずれも千年の都を彩る美意識がうかがえます。他にも若冲と同時期に活躍した円山応挙や、若冲とは対極の味わいをみせる文人画なども展示します。これらとくらべて見ると、若冲がいかに個性的なのか、江戸時代の京都がいかに多彩な美を育んでいたのかを実感できます。

文責 天野信治

関連イベント

●特別展記念講演会
「細見コレクションと伊藤若冲」

〔日時〕11月26日(土) 14時～
〔講師〕細見良行氏
(細見美術館館長)

●体験講座

「はじめての水墨画 若冲を楽しむ」

〔日時〕12月4日(日)
10時～15時

〔講師〕内藤華岳氏
(桜花水墨画院 主宰)

〔対象〕どなたでも

〔定員〕15名

〔参加費〕500円

〔申込〕11月5日(土)9時～

●体験講座

「練り切りづくり 若冲の世界に和菓子で親しむ」

〔日時〕12月11日(日)
10時～12時

〔講師〕太田恵子氏

〔対象〕どなたでも

〔定員〕15名

〔参加費〕1000円

〔申込〕11月5日(土)9時～

お電話でお申し込み下さい。

電話・0566-677-6655

若冲の水墨画

(花鳥図挿絵屏風 左隻)



会期中、一部作品の展示替えを行います。

「雪中雄鶏図」は前期(11月19日～12月11日)、「糸瓜群虫図」は後期(12月13日～1月9日)に展示されます。



第2回 /
古文書から分かる
村の暮らし

村の引越し
— 昔の村役場 —

文責：館長 高山 忠士

江戸時代の村は一方的に領主に支配される存在であったようなイメージがありますが、実は高度な自治能力を備えていました。というよりも、むしろ村の自治能力を前提にした領主支配体制であったという方が適切です。

村は、その概要を示す村明細帳や、住民管理にかかわる宗門人別改帳や村送り状、村請状、課税台帳ともいえる検地帳や新田畑反別帳、領主からの納税通知書ともいえる年貢免状、村の争いや生活権の主張をする訴状など、様々な文書を作成したり保管したり、控えをとったりしています。今回は、住民の管理にかかわる文書を紹介します。



↑村送り状（榎前村）

① 村送り一札之事
② 一当村利右衛門娘佐多年三拾五歳罷成今般
③ 其御村甚七方へ縁付遣し度由願出申候二付
④ 任其意送り一札差出申候彼者此方ニ罷居候内
⑤ 御公儀様御法度相背き不申其外旧悪等
⑥ 少茂無御座候勿論宗旨之儀者代々浄土
⑦ 真宗本願寺字西端栄願寺旦那二紛無
⑧ 御座候尤親類縁者之内ニ茂御禁制之切
⑨ 支丹類族之者決而無御座候当申年方
⑩ 此方除帳仕候間自今其御村方御入帳願
可被成候為後日仍如件
⑪ 松平備中守知行所
⑫ 安政七申年正月
⑬ 東端村庄屋
⑭ 深津甚五左衛門
⑮ 板倉内膳正様御領分
⑯ 榎前村
⑰ 御役人衆中

↑翻刻

上の写真は榎前村（現安城市榎前町）に残された「村送り状」といわれるものです。メモではなく、村から村へ出された公式文書ですから、立派な文字で書かれています。①「村送り一札之事」は、さしずめ住民異動届といったところでしょう。

次に、どこからどこへ異動したのか確かめてみます。最後の部分に書かれています。異動元は②東端村（現安城市東端町）、異動先は③榎前村です。

住民異動届ですから、異動する人の身元、名前、年齢、異動理由が書かれています。④利右衛門さんの娘さんで、名前は佐多さんです。⑤年齢は三十五歳、理由は、榎前村の⑥甚七さんへの嫁入りです。次に書かれているのは、身元保証といったところでしょうか。

⑦法に背いたことはありません、⑧悪いことは少しもしていません、⑨西端（現碧南市西端町）にある浄土真宗栄願寺の信者に間違いありません、⑩親類縁者の中にも禁制のキリシタン信徒は決していません、といった内容

です。ちなみに、「類族で広辞苑を引いてみると、「江戸時代キリシタン信徒の一族七世（安系は四世）までの称」とされています。当時からキリスト教の信者に対しての警戒感が強かったかがよく分かります。

最後に、東端村では⑪除籍するので、榎前村に⑫入籍してください、とお願いしています。

送り状を受けた村は受け取ったことが分かるように「請状」を返送します。こうして、江戸時代の村は、きちんと住民異動の把握をしていたわけです。今でいえば市役所の市民課のような仕事をしていたわけですね。

こうした村送り状や村請状は、それぞれやりとりした村々に残されているので、きちんと保存されていれば、その当時の住民の異動の様子を物語る一級の資料になります。

また、たまたまでしょうが文久四年（一八六四）正月と二月のわずかに二ヶ月の間に十一件の村送り状が残されています。当時安城市東尾は、百十戸余りの戸数の村だったそうですが、なんと十軒に一軒の割合で縁組みがあったことになりました。さぞやおめでたい二ヶ月間だったことでしょう。

市内には村送り状が数多く残っています。例えば安城市東尾八幡社には、六十二通の村送り状が残されていますが、それらをくわく見るといういろいろなが分かります。古いものは文政十一年（一八一八）でしたが、その一

通を除くと、弘化五年（一八四八）から明治五年（一八七三）にかけての二十数年間のものでした。また、嫁入りによるものが七十五通、嫁入りによるものが七通でした。

榎前村の佐多さんの年齢は三十五歳でしたが、東尾の五十五人再婚と思われるものも含むの平均年齢は二十七・五歳でした。江戸時代は早婚だったと思われていますが、それほどではありません。娘は貴重な労働力であり、一旦奉公へ出て金を稼いでから結婚することも多かったようです。

どこから来ているか、いわゆる通婚圏をみると、そのほとんどが、本郷や下佐々木など矢作地区の村々、桜井や小川など桜井地区の村々、高木、山崎、上条、今、篠目、赤松、福釜、古井など隣村に限られています。

安祥文化のさとで
はたらく
人たちは
安城市歴史博物館
「歴史民俗
資料整理員」



古文書や屏風、農具、玩具などなど…歴史博物館の収蔵庫には、昔の暮らしがわかる様々な資料が保管されています。市民の方から寄贈されたり、博物館が購入したものです。今回はそんな資料の整理作業をしている、歴史民俗資料整理員の仕事を紹介します。

Q1 資料整理員の仕事って？

写真撮影	目録作り	封筒入れ	ほごり落とし	燻蒸
必要があれば資料の撮影も行います。以前はマイクカメラで撮影していましたが、現在はデジタルカメラで撮影しています。	資料の情報をPCに入力して目録を作成します。これにより必要な時に目的の資料を探し出すことができます。	資料の劣化を防ぐため、また別の資料に影響を与えないよう、点ずつ封筒に入れ資料番号をつけず。	刷毛で表面についているほこりや虫を落とします。汚れなどが残ったままだと資料がどんどん傷んでしまうので、細心の注意を払いながら丁寧に行います。	博物館に届いた資料は、まず殺虫・殺菌するためガス燻蒸されます。

Q2 収蔵庫ってどんなところ？

整理された資料は企画展などで博物館に展示され、お客さんの目に触れることとなります。しかしそれはごく一部で、収蔵品庫にはその何百倍もの量の資料が保管されています。

所蔵資料はすべて、歴史を語る貴重な財産です。これらを未来に残していくために、日々資料整理が行われています。博物館を裏で支える重要な仕事です。

棚に紐や布を括り資料の落下防止(写真奥)

にゃー
招き猫を発見!

安祥城址公園イベント

青空太極拳
〔内容〕秋の公園で太極拳を楽しみましょう。初めての人も経験者も、体を動かして健康増進!
〔開催日〕10月22日(土) 10:30～12:00
〔会場〕安祥城址公園
〔講師〕劉紅年氏(中国伝統医学太極拳会・日本康謙堂太極拳会 会長)
〔費用〕500円
〔対象〕どなたでも・50名
〔募集開始〕10月5日(水)9:00～
電話で歴史博物館へお申込下さい

歴博演芸場

秋のお月見コンサート
〔内容〕中国の伝統楽器「胡弓」が奏でる、優しく、そして少しの悲しい繊細な音色を、秋の城址公園の風情も味わいながらお楽しみいただけます。皆さんもご存じの日本の名曲を中心にお届けします。
〔開催日〕11月3日(木祝) 13:30～15:00
〔出演〕張連生氏(中国国家一級胡弓演奏家)
〔場所〕安祥城址公園
〔費用〕無料(どなたでも鑑賞できます)

安祥文化のさとまつり

第11回安祥文化のさとまつり
〔内容〕芸術活動や歴史研究発表など、歴史と文化をテーマとしたお祭り。今年は第31回国民文化祭・あいち2016事業として安祥文化のさとと本證寺の2会場で開催。会場をウォーキングで結びます(シャトルバスも運行)。ぜひ両会場足をお運びください。
〔開催日〕11月19日(土)・20日(日)
〔場所〕安祥文化のさと・野寺町本證寺

安城市歴史博物館の10月～12月のイベント

SATO マルシェ
〔内容〕安祥文化のさとまつりにて、地域の旬の食材等を集めた SATO マルシェを開催。「地域の特産品を使ったスイーツ × 世界の珍しい紅茶」のコラボや、昨年『国産紅茶グランプリ』でグランプリを受賞した豊橋の生産農家の紅茶の試飲コーナー、「紅茶の美味しい淹れ方」のミニレッスンも実施します。
〔開催日〕11月19日(土)・20日(日)